

Innovation



ダイハツ工業株式会社 取締役社長

箕浦 輝幸

昨今の金融危機、原材料の高騰など自動車産業を取り巻く環境は一段と厳しさを増していることはご承知のとおりです。こうした中、ダイハツは多様化するお客様のニーズに合った魅力的なスモールカーづくりに向けた商品開発と技術革新を積極的に推し進めております。

近年では、2005年の軽自動車用新エンジン「KF型」の開発や、軽量・コンパクトで、滑らかな加速と低燃費を実現した「3軸ギヤトレンCVT」の自社開発などスモールカーの技術開発・向上に積極的に取り組んでまいりました。こうした技術を結集し、2006年には主力モデルである「ムーヴ」「ミラ」をプラットフォームからエンジンまで全身一新させました。また2007年には超スペース系軽自動車の先駆者となった「タント」を、軽自動車の規格内で最大限の室内空間の「広さ」と「使いやすさ」にこだわってフルモデルチェンジしました。その結果、軽自動車の新車販売台数において2006年度から2年連続でシェアトップを獲得することができました。これはダイハツのクルマづくりがお客様に高く評価していただいた結果と心より感謝いたしております。

この流れをさらに強く推し進めるため、昨年、創立100周年を機に新たなグループスローガン「Innovation for Tomorrow」を掲げました。これはダイハツが長い歴史の中で培ってきた開発・技術力を生かしながら、さらに魅

力あるクルマづくりのためにより一層の「Innovation(変革)」を行なっていくことを意味し、車両開発から生産、販売まで、社員一人ひとりがそれぞれの目標を掲げ、その達成のために考え行動していくものです。こうした改革の波は国内外の拠点にまで広がっております。

特に改革の成果が見えはじめてるのが生産部門です。2007年12月に竣工しましたダイハツ九州 大分(中津)第2工場は、「SSC(シンプル・スリム・コンパクト)」をコンセプトに建設し、隣接する第1工場と同様に約23万台の年間生産能力を有しますが、建屋面積は第1工場の約半分に、設備投資額は約6割に抑えることができました。これは建設当初より「1/2」という目標値を明確に掲げ、それに向かって全社的に努力して達成したものです。もちろんそれは、大分(中津)第1工場をはじめとする国内の各工場における効率的な生産のノウハウが土台となっ



新型タント ミラクルオープンドア



ダイハツ九州 大分(中津)第2工場 組立工程

て実現したのですが、このように目に見える形で改革の成果が現れたことは、次の展開に繋がる自信になりました。

2008年8月に竣工しましたダイハツ九州の新エンジン工場 久留米工場でも大分(中津)第2工場で培った「SSC」化のノウハウを最大限活用し、軽自動車専用エンジン工場に特化することで、工場容積・設備投資などを大幅に削減しながら、省エネルギーなどの環境への配慮と高い生産性を実現する工場とすることができました。

このような生産部門の成果はあらゆる業務改革のもとになるとともに、社員一人ひとりの意識改革を促します。個人が掲げた目標を確実に実行していくというプロセスは、優秀な人材確保・育成を行なううえで非常に有効なものになります。今後はこの改革を開発・調達・販売部門においても取り組み、改革を加速させてまいります。

国内の人口が減少に向う中、ダイハツの発展にはグローバル化が不可欠なことは言うまでもありません。現在はインドネシアをはじめとするアジアを拠点に現地生産を行なっております。

インドネシアでは合弁会社のアストラ・ダイハツ・モーター社(以下ADM)において、現地の自動車需要の増大と共に販売台数・シェアも拡大してきております。2007年11



グランマックス バン

月には第2生産ラインを立ち上げ、年間生産能力を20万台超レベルまで引き上げました。また、ADMで生産している「グランマックス」は、トヨタ自動車の日本国内販売向けにOEM供給もしております。今後は、インドネシアをダイハツの海外戦略拠点と位置付け、現地の販売需要だけに対応するのではなく、アジア・中南米・アフリカ等に向けた輸出の拡大に取り組んでまいります。

マレーシアでは、ダイハツが出資するプロドゥア社で生産する「マイヴィ」がベストセラーを続けておりますが、昨年5月発売の「ビバ」(ミラをベースに現地化)も好調な販売を続けており、2年連続でプロドゥア社が現地シェアトップを堅持しております。

私ども自動車メーカーにとっての最重要課題は「環境」です。ダイハツが得意とする軽自動車をはじめとするスモールカーは、環境負荷の少なさという点では有利な資質のクルマといえますが、資質だけでは生き残ることができない時代に突入したと考えています。まさに「Innovation」が必要で、常識を打ち破るような新しい技術を自分たちで創造し、カタチにしていくことが重要なのです。

私どもはガソリン車の燃費向上を当面の現実的かつ最重要課題として研究開発を進めております。最近のガソリン価格高騰が示すように、「低燃費のスモールカー」の需要はグローバルな課題で、スモールカーの専門メーカーとしての当社は、その実現に全力を尽くす所存です。

また、今年7月に行なわれた北海道洞爺湖サミットでは、将来のクリーンエネルギーの一つの選択肢として、昨年9月に発表した貴金属を使用せず、省資源、低コスト、そして燃料の安全かつ容易な取り扱いが可能な新燃料電池の基礎技術「貴金属フリー液体燃料電池」を用いたミニカーを展示し、国内外の関係者からご注目いただきました。

私どもダイハツは長い歴史の中で諸先輩が培ってきた技術やスモールカーづくりのノウハウを礎としながらも過去にとらわれることなく、現地現物の精神で「Innovation」であらゆる課題に挑戦してまいります。

そして世界に誇れる独創的な技術を開発し、軽自動車をはじめとしたスモールカーで世界に貢献できるよう努力を重ねていくことを決意いたしております。

皆様方の一層のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。